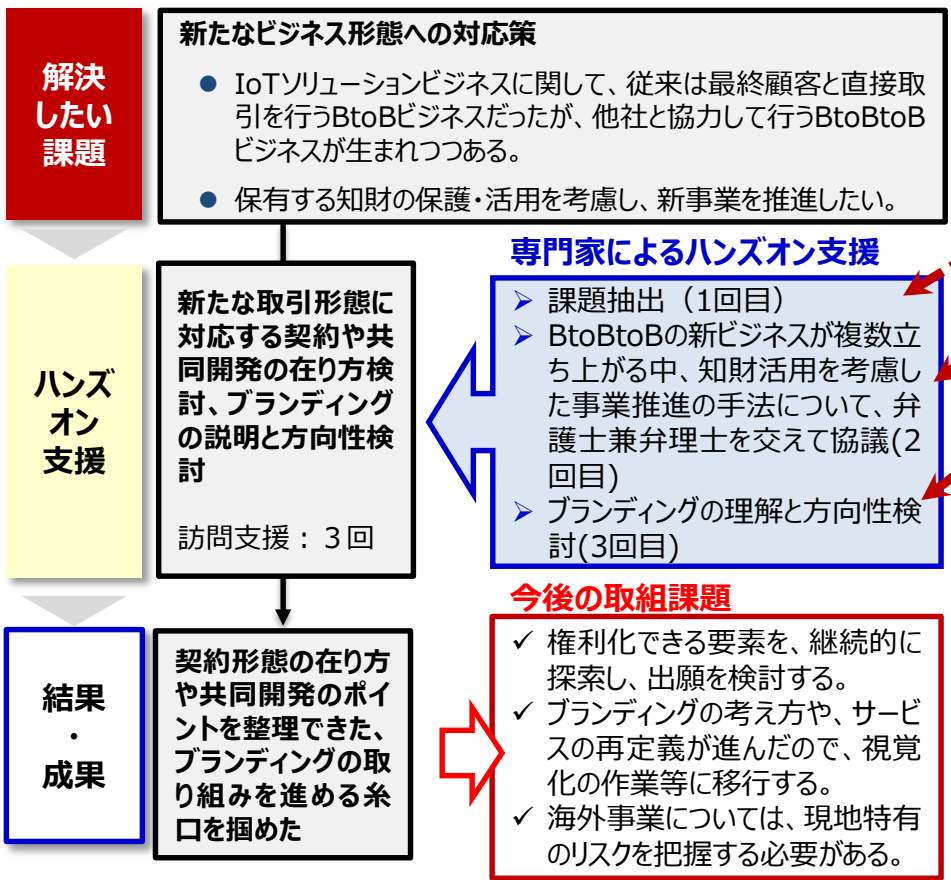



事例1 : i Smart Technologies株式会社 (新たな取引形態の在り方検討、ブランディングの方向性検討)

■ 知的財産経営実践の概要



■ 取組の詳細


 従来は、国内の中小ものづくり企業を主な対象として、IoTソリューションビジネスを提供してきた。近年、ビジネスパートナーとして、中堅・大手企業との接点が増えている。

同社が保有する知財（技術・ノウハウ・ブランド等）や、知的財産権として権利化できる様々な要素に目くばせしつつ、各種事業の内容についてヒアリングを行った。ビッグデータを保護・活用する視点を併せ持ちながら、複数のBtoBtoBビジネスにおける契約形態や、共同開発の在り方について助言を行った。

ブランディングの理解を深めるために、複数の取り組み事例を紹介。その後、既存のIoTソリューションビジネスに関して、サービスの再定義（メニュー、提供価値、顧客像、等）を試みることで、ブランディング施策を展開していくための土台を固めた。

■ 企業の声

本格的に事業が展開する段階のことを前もって想定し、ビジネスの進め方を検討することの重要性について理解が高まった。法務面の知識が蓄積されたことや、保護・活用を意識すべき知財の要素について理解が深まったことの意義は大きい。

■ 企業概要

業種	情報サービス業（IoTソリューションに基づく、製造ラインの遠隔モニタリング・改善コンサルティング等）				
住所	愛知県碧南市	URL	https://www.istc.co.jp/index.html		
創業	2016年9月	従業員数	12人	資本金	100万円

■ 支援専門家（回数）

支援コーディネータ
 中小企業診断士（3）
 同行専門家
 弁護士兼弁理士（2）